

整枝・剪定の前に

ももの経済樹齢は15年前後と見られております。15年生を過ぎたら、改植・新植により、積極的に園地の若返りを図りましょう。

苗木導入の際は、補助事業（市単事業や国の補助事業）をご活用下さい。

収量の目標

果実重によって異なりますが、去年の果実肥大・収量を振り返り、今年の剪定の参考としましょう。最終目標は3t/10aです。

【樹齢別 着果数目標（開心形の場合）】

定植3～4年で1樹当たり100個	10a当たり500kg
定植5～7年で1樹当たり200～300個	10a当たり1000～1800kg
定植8年以降で1樹当たり400個	10a当たり2000kg

剪定の基本3原則

- ① 日が当たりやすい
- ② 薬剤がかかりやすい
- ③ 作業がやりやすい

剪定時期

- ・7年生程度までは凍害・枯死の発生率が高いため、厳寒期(1月)の剪定は行なわない。

ももの整枝・剪定で特に注意する事項（凍害対策も含む）

- ① 下部（基部）優勢
- ② 若木ほど弱剪定 若木の秋季剪定は行なわない（貯蔵養分確保）
- ③ 切り口には、必ず癒合剤（トップジンMペースト等）を塗る
- ④ 剪定による主枝方向の無理矢理な変更は行なわず、誘引を活用する

1、整枝せん定の進め方

- ・園全体の把握 ⇒ 整枝 ⇒ せん定
- ・まず園全体を観察し、どのように進めるか方針を決める
(例：老木や胴枯れ症状が発生している場合は植え替えを検討。混み合っている場合は間伐や縮伐が優先。)
- ・次に樹勢や枝の配置等を観察し、栽植されている樹の状況を把握する。
- ・品種・樹齢に応じてせん定を進める。
(例：新梢の発生程度、芽が飛んでいないか、枝が垂れやすいかなど)

2、樹の特性

- ・樹の生育が旺盛で、樹冠の拡大が早い。(若木時代の管理が樹形に大きく影響)
- ・結果期に入ると枝が下垂し、樹姿は開張しやすい。
- ・下部優勢。
- ・日照要求量が高く、日当たりが悪いと枝の充実が悪くなる。
- ・傷口の癒合が悪く、枯れ込みが入りやすい。
- ・太枝は日焼けになりやすい。(直径10cmを超えとなりやすい)
- ・ネクタリンは直立性が高い品種が多い。(花芽がとぶものも多い)

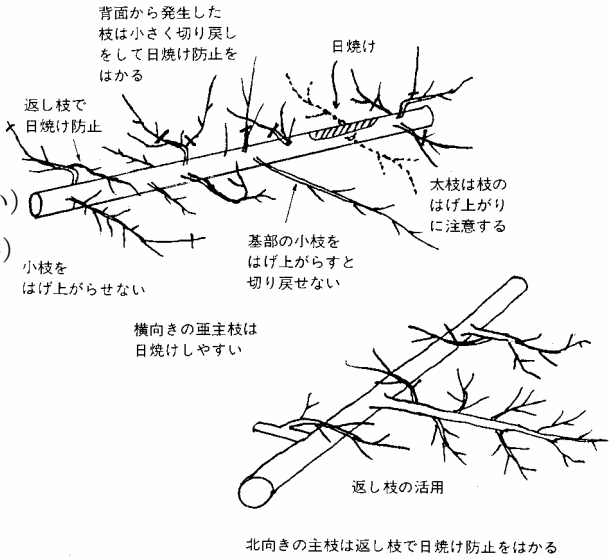


図14 太枝の日焼け防止

3、整枝せん定の基本と注意点

- ・栽培管理が（一般管理、薬剤散布）が効率的にできる樹形とする。
- ・各枝は均衡のとれた樹冠を構成し丈夫な骨格を作る（主枝⇒亜主枝⇒側枝⇒結果枝）
- ・せん定だけで解決しないで各枝の誘引や吊り上げ作業を行い目標樹形に近づける。
- ・枝の配置イメージ：川の流れがスムーズにいくように
- ・間引きせん定主体（樹全体に十分な日照量を得る）。樹勢により切り返しや先刈りを行い、更新を図る。
- ・枝は全て葉型になるように（先端小さく、中間部大きく）

4、防寒対策

- ・若木を中心に胴枯れや寒害が増えているので、主幹部にワラ巻きを行う。
- ・切り口にはトップジンMペースト等の癒合剤を塗布する。
- ・若木の強せん定は避ける。(枯れ込み防止)

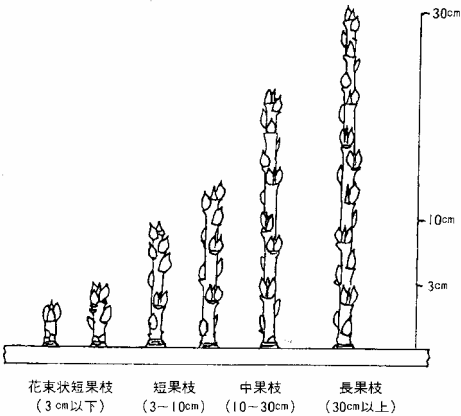
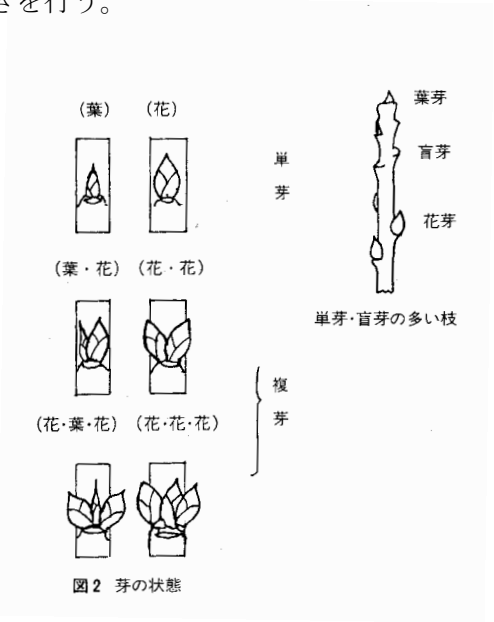


図1 結果枝の種類



平面図

側面図

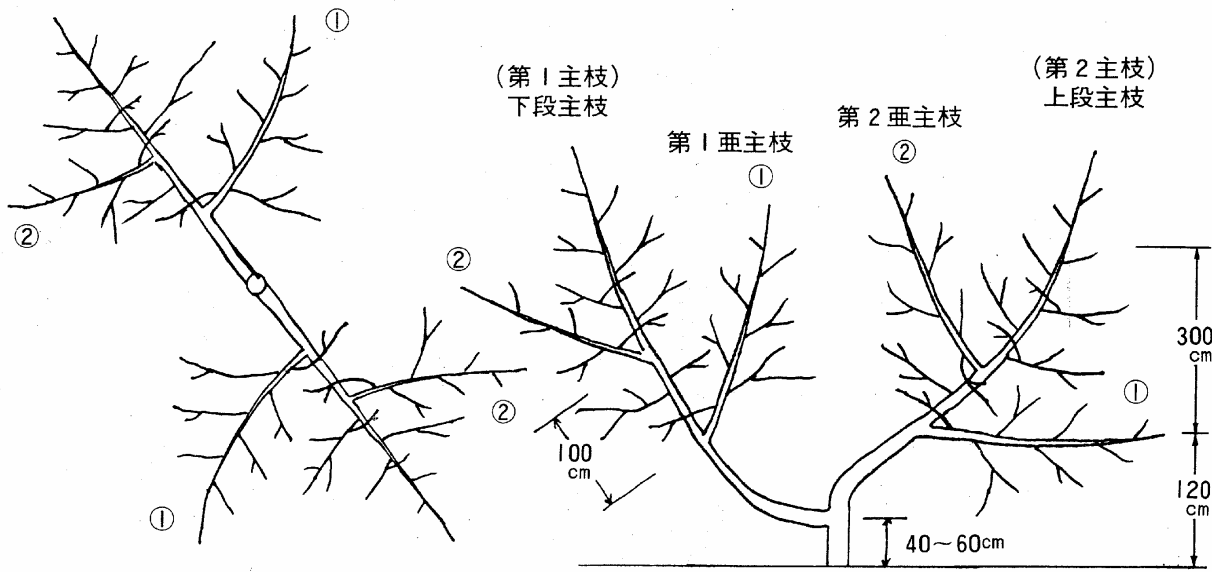


図3 開心自然形仕立ての目標樹形

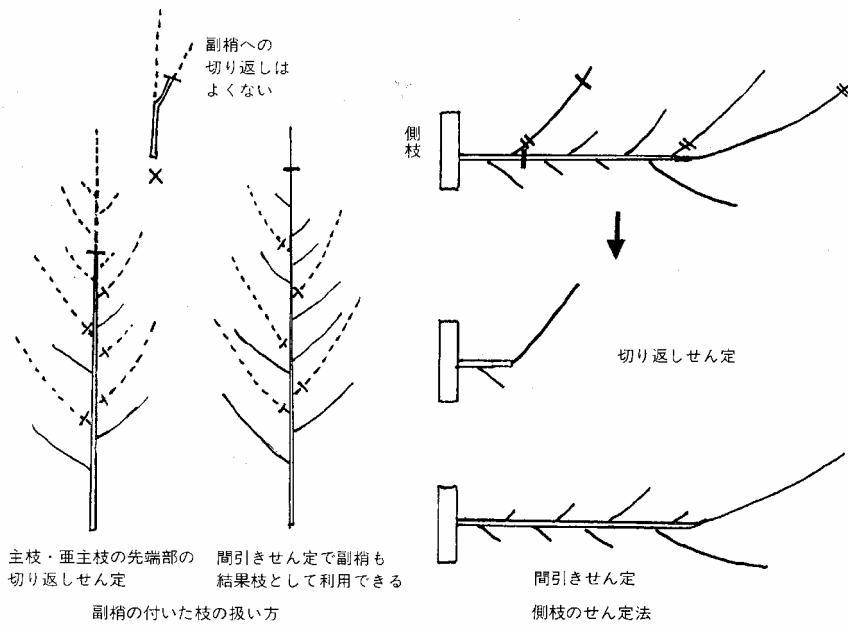


図13 切り返しせん定と間引きせん定

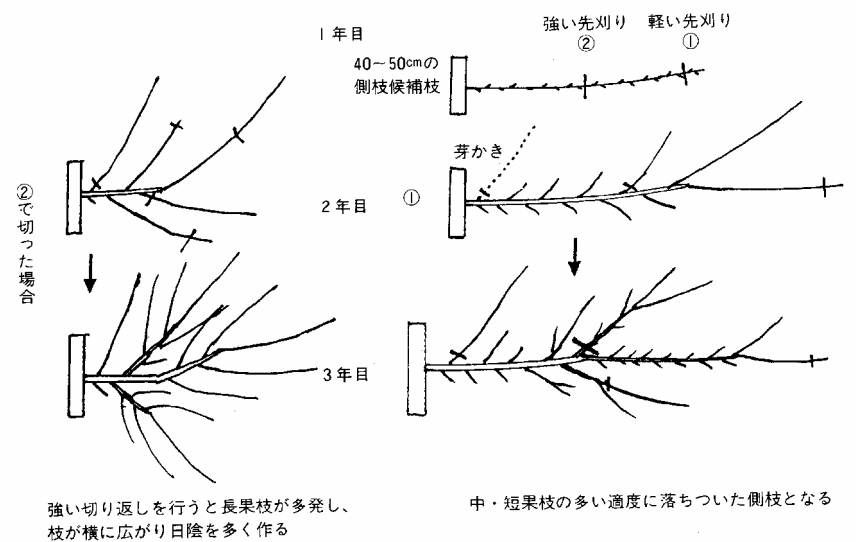


図15 側枝の作り方